

毛刈りの効果

Oku

● はじめに

今回、飼養管理の優れた農場で毎年取り組まれていた毛刈りの効果について少し調べてみたので紹介したいと思います。

毛刈りは以前より、特に乳房衛生の向上と関連することは言われていました。また近年搾乳ロボットが多く導入され、乳房の毛刈りする農場は増えています。一方、暑熱ストレスの軽減、さらには行動改善や健康維持にまで影響する、可能性もあるようです。今年（2025年）も北海道では、昨年・一昨年に続き『平年より高温傾向』との長期予報が出されています（気象庁 2025年4月発表）。この夏に向け、毛刈りによる暑熱対策も効果があるかもしれません。

● 乳房・尻尾周りの毛刈りと生産性・衛生向上

乳房や尻尾周囲の毛を処理することで、泥や糞便などの汚れが付着しにくくなり、乳房衛生が向上し、乳房炎リスクが低減することは以前から報告されています（Sargeant et al., 2001）。特に搾乳ロボットを導入している牧場では、乳房周辺や乳頭の毛刈りを行うことで、搾乳アームの装着成功率が高まり、搾乳時間が短縮されることがわかっています（Jacobs and Siegford, 2012）。尻尾の毛刈りも清潔性向上や皮膚へのスラッピング行動の抑制を通じて、間接的に牛の快適性向上に寄与すると考えられています。

● 全身の毛刈りによる暑熱ストレス対策

夏季に牛の体毛を刈ることで、体表温度が低下し、呼吸数が減少し、暑熱ストレスの軽減が認められることも報告されています（Igono et al., 1985 ; Polsky & von Keyserlingk, 2017）。暑熱ストレスを受けた牛は、体温を下げるために立位時間が長くなる傾向がありますが、体温負荷が軽減されることで横臥（休息）時間が延び、これが蹄病（蹄底潰瘍など）リスクの低下にもつながる可能性が示唆されています（Cook et al., 2007）。

● 毛刈り時の毛の長さ与时期

乳房・乳頭周囲：1～2cm以下に短くすることが推奨されています。尻尾（スイッチ部）：5～10cm程度残してカットします。全身体毛：5～10mm程度の長さに留め、地肌がわずかに見える程度が理想とされています

- 乳房・乳頭周囲、尻尾の毛は定期的に毛刈り・毛焼きで清潔を保ちましょう。
- 暑熱期前（5～6月頃）に体毛を刈ることで、夏場の快適性向上をサポートできます。
- 冬季の刈りすぎは体温維持を妨げるため注意が必要です。
- 毛刈り後の皮膚ケア（水分保持、虫刺され対策など）にも留意しましょう。

